

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人岩手大学

1 全体評価

岩手大学は、「岩手の大地とひとと共に」をスローガンに、地域の中核的学術拠点として地域を担う指導的人材の育成とその基盤となる学問諸分野の研究を行い、また、被災県にある国立大学として地域の復興推進に取り組むことを目指している。第3期中期目標期間においては、地域を先導する大学として、地域再生の課題解決をはじめ地域社会の持続的発展のための課題を中心に置きつつグローバルな視点も含めた教育・研究・社会貢献等の活動を展開し、地域に根差して成果を世界に発信するとともに、復興と地域創生を絡めた新たな教育・研究の国際展開に全学を挙げて挑むこと等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、グローバル人材を養成するための学部横断型教育プログラムを創設するとともに、三陸復興と地域創生を融合的に推進する体制を構築するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- グローバルな視点を持った「いわて協創人材」に求められる、外国語能力、交渉力、発想力、課題解決力を高める学部横断型教育プログラムIHATOVOグローバルコースを開設し、1年次生を対象として41名の登録を開始している。併せて、IHATOVOグローバルコースの学修成果の記録、評価の可視化のためのeポートフォリオシステムを構築している。（ユニット「『いわて協創人材』に求められる教育のグローバル化の推進」に関する取組）
- 三陸の復興と岩手県の「まち・ひと・しごとの創生」、持続可能な豊かな地域社会づくりに貢献する活動を積極的に推進する方向性の下、三陸復興推進機構と地域連携推進機構を統合して「三陸復興・地域創生推進機構」を設置し、一般市民やNPO、行政・教育関係者を対象に三陸復興・地域創生推進機構発足記念シンポジウムを開催して、大学の機能強化における震災復興・地域創生の位置付けや新たに設置した機構の役割・特徴を紹介している。（ユニット「三陸復興事業及び地域連携事業を長期的に継承する体制の整備」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営				○		

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載14事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 三陸復興と地域創生を融合的に推進する体制の構築

三陸復興と人口減少下にある岩手県のまち・ひと・しごとの創生を目指し、「実践領域」と「教育研究領域」の2つの領域から地域貢献を強力に推進する「三陸復興・地域創生推進機構」を設置している。あわせて、旧三陸復興推進機構に設置されていた久慈エクステンションセンター・宮古エクステンションセンター・大船渡エクステンションセンター・釜石サテライトも統合することで取組を一体化し、三陸地域における産学連携の加速も図っている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成27年度評価及び第2期中期目標期間評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているが、情報セキュリティマネジメント上の課題があったこと等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

○ 情報セキュリティマネジメント上の課題

平成27年度評価において評価委員会が課題として指摘した情報セキュリティマネジメント上の課題（個人情報への不適切な管理）については、平成28年度においても情報セキュリティを脅かす確率が高い事例が発生し、また、必要な情報セキュリティ対策が講じられていないことなどから、再発防止に向けた組織的な取組を更に実施することが求められる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ グローカル人材を養成するための学部横断型教育プログラムの創設

地域に顕在化した諸課題をグローバルな視点から解決し発信できる人材を育成するため、外国語教育やグローバルなトピックを取り入れた学部横断型授業等により、知識・探究力、コミュニケーション力、人間力を向上させ、学生個々の専門性を生かしたグローバル対応力を養成する「IHATOVO（イーハトーヴ）グローバルコース」を開設しており、41名の学生が登録している。あわせて、IHATOVOグローバルコースにおける授業や地域活動、学生の自主的な国際交流活動等に対しマイルを付与するGlobal Mileageシステムを構築しマイレージ登録を開始している。

○ 第2期中期目標期間の実績を踏まえた若手・外国人教員支援

第2期中期目標期間の学内支援経費について実績評価を行い、その成果や有効性を踏まえた、より効果的な若手・外国人・新任教員に対する支援方策として、将来の発展性が期待される萌芽的研究や持続社会形成研究活動に必要な経費を支援する「研究人材育成支援経費（若手）」、グローバル化の実現につながる研究活動に必要な経費を支援する「同（外国人教員）」制度を創設し、支援を開始している。（平成28年度採択実績：（若手）10件、（外国人教員）4件）

○ 起業家人材育成のための教育プログラムの構築

学生が実践的な課題にチャレンジする機会を提供することを目的として、複数の地域リーダー（起業家・事業者）が事業課題に関わるビジネスのテーマを出題し、そのテーマごとに岩手県内の学生がチームを組み、半年にわたって起業を学ぶ「いわてキボウスター開拓塾」を開始している。ワークショップとフィールドワークを中心に、外部メンター等の支援を得ながら課題解決方法を探るプログラムを構築しており、26名が受講している。